

「夏の大三角」は夏だけでなく、初冬の今の時期でもよく見えます。「夏に見る夏の大三角」は、ほぼ天頂に位置するので、観望すると首が疲れます。しかし、今の時期は西の空に傾いているので、むしろ首が楽なぐらいです。その夏の大三角の真ん中に「こぎつね座亜鈴状星雲 M27」があります。

この有名な星雲は「惑星状星雲」と呼ばれる星雲の一つです。「惑星状」と呼ばれるのは、口径の小さな望遠鏡で見ると、惑星のように「大きさ」を持って見えるからで、星雲と惑星とは何も関係はありません。中規模の恒星が、「超新星爆発」を起こさずに終焉を迎える時に放出したガスが、中心核の放出する電磁波（主に紫外線）で電離し、光って見えるのが惑星状星雲と考えられています。

太陽系から 1235 光年に位置する「こぎつね座亜鈴状星雲（あれいじょうせいうん）」は、最も観望が容易な惑星状星雲でしょう。それでも「鉄亜鈴」のように真ん中がくびれた形を観望するには、口径 20cm 以上の天体望遠鏡が必要です。しかし、この Seestar（天体写真儀）で撮った亜鈴状星雲は、亜鈴型に写っているだけでなく、星雲の内部の濃淡や、星雲の下端から尾のように突き出た「ジェット」のような構造まで写っていました。これは口径 40~50cm の天体望遠鏡の性能に匹敵します。これを東京都文京区で撮影した・・・と言えば、誰もが驚くでしょう。次に撮ってみたい惑星状星雲は「おおぐま座のふくろう星雲（M97）」です。

（2024 年 11 月中旬／Seestar で撮影／文京区お茶の水女子大学構内）

